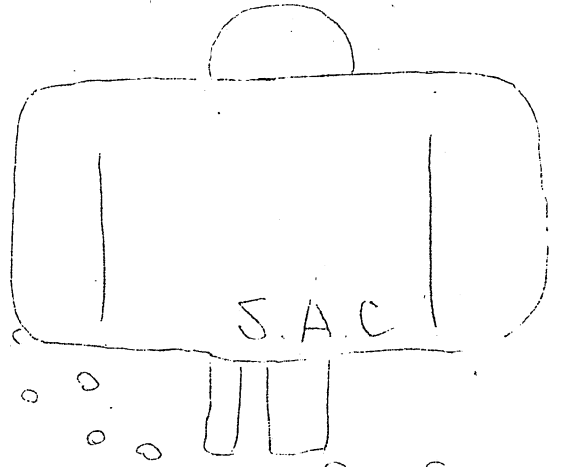
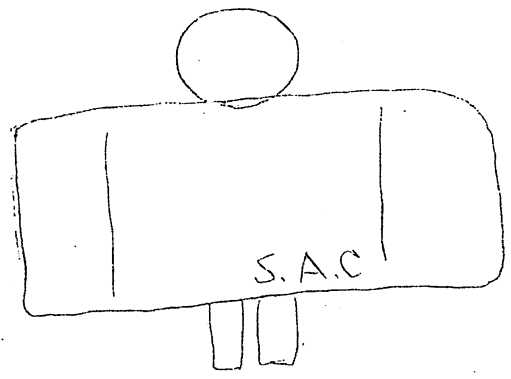


1966年度

なつやま

合宿報告書  
西山はあてい



信州大学学生会  
長野山岳部

## 夏山を終って

西山春代

今夏は8月中旬に夏山合宿を計画したのですが、天候にも恵れ残雪が多かった為にお花畑もちょうど盛りで昨夏の南アの感じとはちがった、北アの夏山の良さを知った様に思います。

夏山では体力養成とメンバーシップ・リーダーシップを目標としていました。とくに合宿の中で、重い荷物や毎日の行動をする中で、自分自身を見つめ、自分のわかままではなく自分の為、皆の為にお互いが協力していきます。その中から何かそれぞれの立場で価値あるものを得てほしいと思っていました。山に登るには必要条件として自分の事は自分で出来なくてはいけない、それは当然の事と思います。

その上にお互いの協力、調和がある。そんな party の仲間をもつことは、山行をすばらしくするものの大きな要素であると夏山の C.S.としての自分の未熟さなどを悔之なから、そう思います。

合宿には藤沢さんも参加する予定でしたが、体の調子が悪く水がいたため、途中まで同行し鳥帽子より下山しました。計画では立山川を下る事になっていましたが、残雪期の立山川は余りよくないことと、雨に降られ天気がよくなかった事等の為計画を変更して川を下らずにバス下山にしました。

おわり

# 《夏山合宿計画概要》

1. 期日 昭和41年8月7日(日)～8月17日(水)  
 実動8日(予備3日)

2. 目的 体力養成  
 リーダーシップ・メンバーシップの養成

3. 方法 縦走

4. 場所 北アルプス  
 槍ヶ岳—裏銀座—南沢—五色ヶ原—  
 室堂—立山川—馬場島

## 《参加者名簿》《構成》

3	西山春代(茂) (B)	教家3 21.1.19	長野市柳原上比 2038 長野市小田川 2120	C L 医療
2	桜井栄子(武仁) (B)	教数3 21.1.22	下高井郡小川町杏野 同上	S L 食料 記録
1	渡会意枝(鋼意) (A)	教家1 22.11.10	東筑摩郡坂北町 7037 同上	装備
1	服部洋子(金市) (A)	教 1	松本市里小川西小川 信大好寮 飯田市長瀬町 2丁目	装備

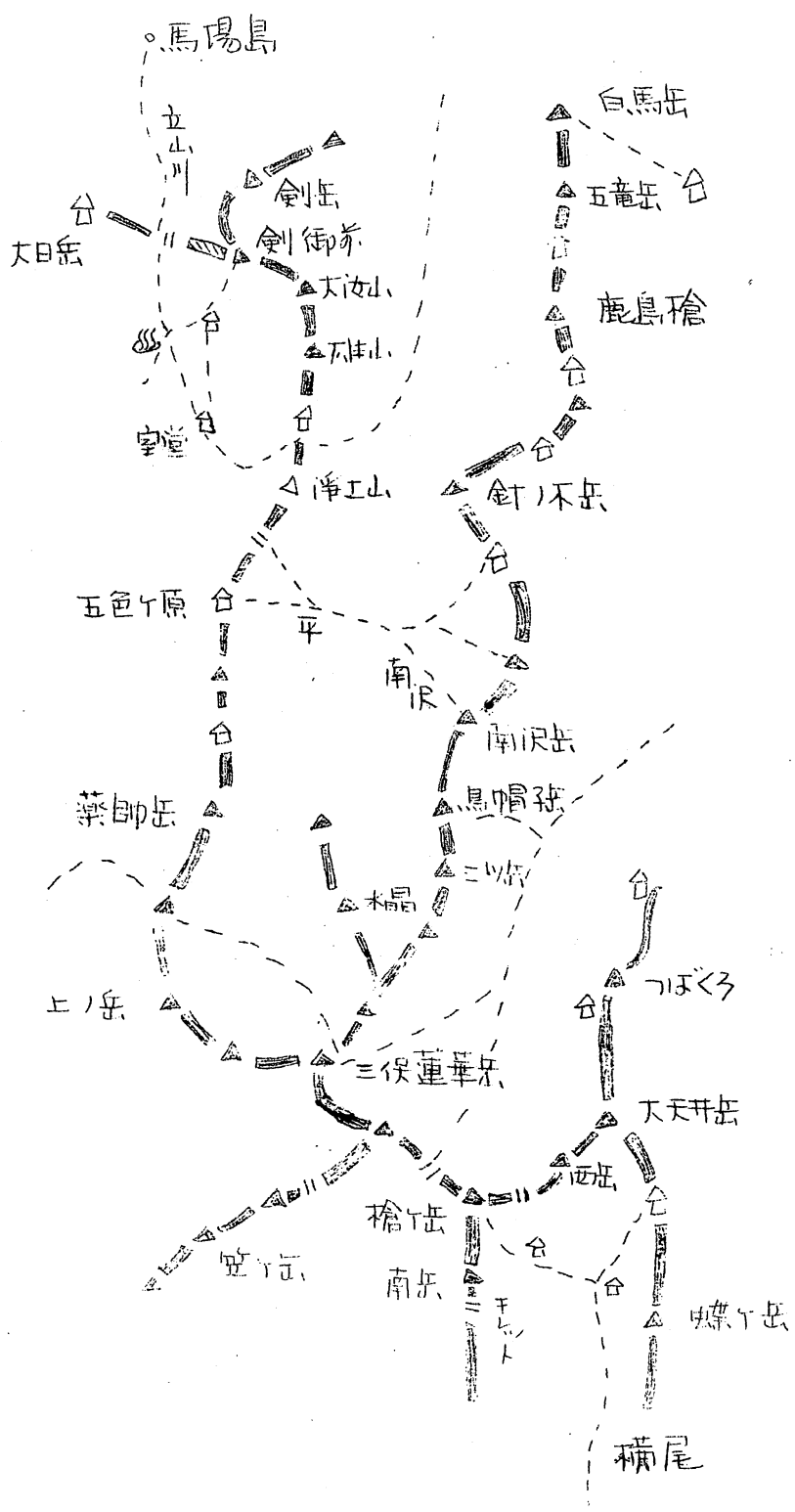
## 《連絡方法》

信州大学本部  
 教育学部厚生補導  
 留守本部

登山本隊

松本(3) 4600  
 長野(2) 8106  
 望月映洲 教育学部社会科4年  
 東筑摩郡明科町中川手 1755(呼265)  
 各山小屋

# 《縦走路概念図》



# 行動日誌

○ 8月7日 晴

6:00	長野駅発	2:40	) 明神
1:30	サマーテニ着	2:50	
2:00	サマーテニ発	3:40	徳沢着

今日から夏合宿。早朝の長のをきて、日ざしの暑い昼頃上高地につく。サマーテニでお昼を食べて、夏らしい山をみながら、徳沢に向けて出発する。カンパのバイン、カンブメ、スイカに舌つみと打ちつゝ合宿一日目の夜を過ごす。

○ 8月8日 晴

5:00	徳沢発	9:45	) 槍沢小屋手前
	2ヶ所分	9:55	
6:40	) 横尾	10:55	) 岩小屋
6:50		11:25	
7:40	) 槍見河原手前	11:55	) 槍沢のとつぎ
8:05		12:15	
	2ヶ所分	6:30	殺生のテニバ着
<8:25 =股越え>			

梓川に沿って朝日の穂高をみながら、二股あたりでは快調なペースでくる。この調子なら早くテニバに着くのではと思いたが、槍沢小屋あたりからガタンとペースが落ちる。

12:15 1名テニバ捜しに先に到着。他の2名も同時に到着するが、残りの2名は大分遅れる。きつい斜道なので大いにシゴカシ。先の2名がテニバについたのは5時。後の2名がついたのは6時半だった。ここまで登ると山に登る感じをうける。

。 8月9日 晴

4:30 鉛筆巻

5:30 檜の肩着

5:35) 檜のピロー往復

6:25

肩巻

4ピロ、傘

10:00) 硫黄乗越午着

10:30

2ピロ、傘

(12:10 糸従沢のピロー通過)

12:45

双 久のテニ場着

今日も 又か、と晴れた天気。薄暗い中を鉛筆巻の午着で御車巻を  
仰ぐ。檜の穂巻迄は 蟻の行列のようで 思いの外時間がかる。  
檜から 双 久迄は 急な登り下りがなく スーズに行く。今年は雪解が  
遅いせいか 所々に雪が残っていて、お花畑が きれいだった。  
休みの度に、花の名前をおぼえたり 後ならぬ 父ちゃんの名前を呼んだり...  
予定では 三保連華迄が 今日 双久泊りとする。  
双久は 池の水は汚くない。その上 虫(蚊に似たもの)がものずい。  
お昼を食べた後 OB・OGの人に 寄せ書きをする。

。 8月10日 晴のち曇 (1:40 71E

5:10 双久巻

4ピロ、傘

3ピロ、傘

2:40 木島へのテニ場着

8:45) 三保の小屋

9:45

2ピロ、傘

11:50) 川原山頂

12:10

今日も青空。いつもと同じ様に 休みの度に良く笑う。連華のお花畑  
が 素晴れだった。昨日 下が 40度の高熱を患ったので 三保の  
診療所で診てもらった。ドクターは、シヨより まだけれど、熱の調節  
器官が 狂っているのではとの診断。体には 異変はなく 熱は  
すずかに 下り 至って元気。

ガラガラの氷の登りには ミニカシタ。頂上直下の氷は大地は。ミニカシタ後だけに 氷の色が 何とも云えず。

！ 氷晶のテニ場についたのが 2:40。天場の近くで 雷の音に 目撃。風の強い所と云うので 大さな石を集めて バンチ テントを張る。近くで 雪渓があるので ほんの少し 雪上訓練をする。

氷晶は お花畑もきれいなし 氷もあるという天場だが 正規のテニ場でないので 本当はいい所どころに。

。 8月11日 晴

5:05 氷晶発

3℃.F

8:10)

野口五郎

8:30)

6℃.F

2℃.F

11:00)

11:30)

ミツ岳 6℃.F

12:45 鳥帽昌子のテニ場着

テニ場から 1℃.Fの間 ガラガラ崩れにやせ尻程が 凝り かなり緊張して歩く。が、それ以後は スムースに テニ場迄 来て しまい 取れない。テニ場直下の地は コーヒー色をしていて 下剤と一緒に なくては使えない。代物なので 往復 30分以上かゝる雪渓迄 五ヶ所。六ヶ所 氷汲みに行く。お花畑の中に 張らせてくれたらと 嘆くこと 3回。

それにしては 野口五郎の近くから見る氷晶は なかなか素晴らしい。雪渓もなかなかきれい。今年はやや雪が多い。

太いかゆらす 4時程度になると 遠くで 雷が 鳴り始める。

。 8月12日 晴 のち曇 (夕立)

4:10 鳥帽昌子のテニ場発

4:50) 鳥帽彦年 新平

5:20)

2℃.F

6:55) 南沢の6℃.F

7:15)

(7:35 南沢の下り口に入る)

(10:00 雪渓を降り始める)

3℃.F

1:10) 南沢を下りる

1:50)

(3:40 針ヶ谷との生命を通過)

4:20 平のテニ場着

鳥帽子で昼間の花火を楽しんでから下と別れる。

庫沢の下り口に入ると 今迄の山の木々の道路とは違って 全然なる  
山道になる。ブ、ミの道が2キロ程。そこから まるく嫌な  
下り道 何メートルあるだろうか。3時前 一キロまで歩いて  
けれど みんぼす可一つ云はず。生合いに生火煙から 近くで  
雷が鳴り 雨がパラパラと落ち始め。ト、フが 急ぎ足で 行たけれど  
この日はかりは とんでつく。合宿中で 一番疲れた日だ。一番  
一懸命 生火日もある。テニ場ではカビスが居た(山打代と生合)

○ 8月13日 晴 のち 雨

5:45 平巻

(8:40 刈安寺通過)

6:05 渡場着

5:4

6:20~30 舟

12:00 五色ヶ原のテニ場着

6:45 平小屋巻

渡場舟の一番が 6:20 それで今日は こんな遅い巻となる。

こんな山の中で ポンポン舟に乗るのも 何かは楽しい。

平小屋から五色ヶ原への道は 昨日と違って 良く整備されている  
道だった。森林帯を抜けると 仄のない 赤らような夏の太陽に  
さんざん 照カれる。が、思ふより早く 五色ヶ原につく。こゝも雪が  
残っている。お花畑もい。

テニ場につくと 向もなく トイ雨が降り出す。

入山してから 一週前歩きつめたため 明日は 池瀬と決定。

夫々 歌唄指導あり、楽しい夜を過ごす。

○ 8月14日 雨 のち曇

池瀬

一晩中 降っていた雨が 朝方止むが 依然と 良い天気とは云えず。午前  
後 思ひ思いの村を過ごす。ハカキを巻く 鐘のぞく 列一ツ油をかける人。  
この日 池瀬の人のパーティーが 五色ヶ原到着。



○ 8月15日 晴

4:55 テニ場発

8:30

一の越

6:25

9:05

6:35) 1号バス→

9:30

室堂着

8:00) 富士山の研究所

10:00

雷鳥沢のテニ場着

立山川を下る予定で、五色ヶ原を早く出発。途中 一の越と室堂で立山川  
の称子を現地の人に聞く。「雪渓が切れて落ちているまかりたし水量も  
多いためおそれない」と言う話なので、残念だが17日室堂からバス  
下山することにし今日は雷鳥沢でテニ張ることにする。  
11時 ちとテントを張り終ったと思たら、今日はテニ場外だからテントを  
張り直おせとのこと。シヤクに降たいけれど、仕方がないからまたテントを  
たいて張り直す。

○ 8月16日 雨

池瀬

昨日、晴れたら剣立山の方へ行って見ようと言っていたのだが、生憎  
の雨で池瀬。いつもは嬉しく思う池瀬も、今日ばかりは残念の正体。  
朝エ、ペンエおませた後、テントの張り直しを11時おたは良かったのだが、  
途中、ポールの中の留金がとれて、しみ心地の良い我家の半壊の  
憂き目に会う。三人集れば、モンジユの智慧とやら言うらしいが、どうも大  
余計なせいか、修理に2時間も半ほど。とんだ一日だった  
夕方、雷鳥荘で温泉につかり、夏山の疲れをとる。

○ 8月17日 晴 のち 雨

8:00 室堂発

2:00 雷鳥島着

この山脈の側に行くので、バスで下り、又バスで上り直しかと思つてシヤク。  
いつもより、早くて少くとも思ふ人でも、今日ばかりは一升の正体抱こ  
いと云うヤハヤ。下界の暑いことと思ひ知らされた一日。おしまい。

## 各係の反省

### 1. 食糧係

自分でも思い返しても情けなくやる物ばかりであった。計画を立てた時は  
たれとカリ―計算でやるべく軽く、バラエティーに富んだものをと  
一生懸命考へたつもりだったのだが。次の時は9数を厳密に考へて  
みようと思っている。

今回一番良かったのは、番外の天ぷらと白菜の塩漬け。特に天ぷら  
は良かった。今後の山行にも取り入れたい。どうだろうか。

「はちみつ、れいし、菓物のカンヅメ、パイナップル、ヨーグルト」のキャンパの  
おいしかったこと、やはりよし、これからもまていた。

### 2. 気象係

11日の中、一日中雨が降ったのは一日だけで、その他は、行動  
を終えてから降危日が一日。お天気には恵まれたと云えるだろう。

荒っぽくて、ずいぶん天気予報だけだ。

「12日迄は、小笠原高気圧の北進が鈍っていたので、良いお天気だった  
が、13日にはそれが熱低の勢いで、東洋上に追いやられたので、赤線が  
南下し、雷と雨を多量にもたらした。16日には、用土川と山崎の両塞  
赤線にさんざん悩まされた。また、台風13号は上空に大きな影響を及  
ぼしたか知らんが、直接的には何もなかった。」

その他—— トランジスタラジオの入山前の点検は必ずすべきと思う。

## 医療係

西山

夏山合宿では日程がゆるめにとってあった事もあって病員らしい病気はなく虫さされの薬の使用量が少かった位で無事終ることかできました。

ただ強く感じたのは、入山する時には完全に健康で入山しなければいけないということです。少くとも健康診断をして悪い所はなおしておく事と、もう一つはトレーニングをして心身共に山に入るときには「心がまわ」でやっていける様であるのが良いと思います。

不注意な事が病気の原因等には特に気をつけ、未然に防ぐ様にしたいものと思います。

自分一人が困るだけでなくかいては party 全体の向題になる事が多いからです。

夏山で使用された薬は 虫さされの薬、ゼノール(14分)、マキユロ(少々)です。

## 装備係

別にそれほど向題になることはなかったと思いますが、今後夏山合宿では蚊取線香を持っていくのが良いと思います。

雷鳥沢でテントのポールがこわれたのですが、テントはしっかりしたものでないと合宿に大変さしつかえを思われます。

# 会計係

## 入金

合宿費 1人 2,000.-

$2,000 \times 4人 = 8,000.-$

パン代 (藤沢さん5人) 360.-

計 8,360.-

## 支出

### 食費

魚カ 2,412.-

台東 420.-

肉代 460.-

米代 750.-

パン代 2,000.-

計 6,042.-

### 装備

カソリン 480.-

×タ 360.-

ローヤ 135.-

電池(予備) 240.-

計 1,215.-

## 医療

ビタミン剤 480.-

新アレル 140.-

計 620.-

### その他

行市場代 200.-

お風呂 120.-

計 320.-

合計 8,196.- (163円の赤字)

※ 合宿の専対基金 100円 (400) } は別で後で  
印刷代 450円 } 算入す。

真黒い かたまりの水晶岳。

じっとみている、その数秒のあいだ、すでに  
明るみをおびてきた。

地の底を知らぬように ガッ子とたつ その姿  
山の端と山際の色が 変化して、わかれていく

見えぬ世界から 見える世界へと 移っていくその時、  
いくら パレットで色を混ぜあわせて 作っても、  
それと 並べることのできぬ色。

テントがかかりたるんでは、気がつく。

このなべの枠の材料は まだ それらしい色には  
みえはいいが、かなり明るくなってきて。このわずかに  
あいだに、ただ 氷の音だけはさつきと少しも  
かわりない。

朝はんも そろそろ できる。 箸をあにそうか。

ただいま 月 4 = 15

去年の合宿は

1つ 歩くこと!!

1つ ごはんをつくること!!

1つ 眠ること!!

で 精一杯だった。 とにかく去年は 苦しかった。  
その苦しさあつての 今年の山行は 私の目と心を  
多いに 楽しませてくれた。

以上。

なつやま

桜井梁子

野口五郎のピークでも フト思た。・私は山が「好きなん  
だらうか? とりわけて山の脚特美に引かれるわIT  
でなし。お花畑に あるいは より困難なものを征服することに  
興味をもつのもない。もちろん 重い荷物を背負って  
シゴカして歩くのも、テント生活で”シゴカ”するのも好きじゃない。  
一体、私は山が「好きなんだろうか」と、自分自身に きか  
ざるを得なくなる。

合宿の反省は色々ある。沢山ある。二年部員として 必然的に  
任じてくる責任 etc 合宿長としての責任、実際の行動も、  
にたい。

# 夏山の反省

渡会 葛根

初めての夏山で経験したこと、女性だけであったとい  
こともあろうが大変楽しかった。もちろん苦しいこともあり  
新人合宿の後 私は いつ 夕づきを やめようか いつ やめようか  
と 毎日 やちんでいたのであるが、夏山を終えた今  
私は やめる気持は少しもない。

そして 私自身 夏山の反省として、天気図を 速く書けるように  
訓練しなければならぬと思ふ。

